

- 立科小学校/午前9時～午前11時30分  
電話 56-3131 (呼)・有線2190 (呼)
- 立科中学校/午後2時～午後5時  
電話 56-1076 (呼)・有線2251 (呼)
- 立科町児童館/  
午前 11時40分～午後1時30分  
電話 56-0303 (直通)  
有線 8889 (直通)

※予約をされる方は児童館または小・中学校の  
教頭先生へご連絡をお願いします。

# 良寛さんの「戒語」九十ヶ条

～平成30年の年頭に当たって～

立科町教育相談員 岩上起美男

- ひとつの言葉でけんかして
- ひとつの言葉で仲直り
- ひとつの言葉で涙を流し
- ひとつの言葉で笑い合う
- ひとつの言葉で頭が下がり
- ひとつの言葉でいがみ合う
- ひとつの言葉はそれぞれに
- ひとつの心を持っている

どなたの作かは存じ上げないのですが、この詩(警句?)は、言葉の力や素晴らしさ、そして、怖さや危うさなどの二面性を端的に表現していると思います。

言葉は、諸刃の剣であり、使い方によって、人に元氣や勇氣を与えたり、気持ちを通じ合ったりする一方において、人を貶めたり、傷つけたりもします。したがって、昨年、政治家の失言・暴言が何度も報道されましたが、言葉の二面性にまつわるトラブルは、決して一部の政治家だけの問題ではないでしょう。あの時、こう言えばよかった、どうしてあんな(ひどい)ことを言ってしまったのか、という反省や後悔は、程度の差こそあれ誰にもあるのではないのでしょうか。

児童・生徒の「いじめ」にも、必ず、人を攻撃し、人の心を傷つける言葉が暗躍しています。うざいとか、むかつくとか、きもいとか、死ぬとか、人をやっつ

ける言葉(やっつけメッセージ)が子どもたちの口から発せられているのです。

プロ野球ソフトバンクの工藤公康監督が、現役時代、監督命令を拒否して、「すわ、造反か!」と騒がれたことがあります。エースとして大車輪の活躍をしていた工藤投手が、中3日の登板を断ったのです。その理由は、監督が、「頼むぞ、工藤。」と言ってくれば、気持ちよく登板したのに、「投げられないのか。」と言われ、腹が立ったからなのだそうです。

おそらく、やはり多くの方が、このように言われ方をしたことも、つい言ってしまう、意思が通じ合わなかったこともあると思いますので、言葉の使い方についてはよくよく配慮する必要があります(自分が十分できもしないことを申し上げるのは、まことにおこがましいことですが)言葉の二面性、特に言葉の危険性については、大人も子どももきちんとわきまえて、人を攻撃し、その人を貶めたり、傷つけたりするような言葉を口にしてはならないのです。

そこで、平成30年の年頭に当たって、江戸時代後期の禅僧であり、歌人であり、漢詩人であり、書家であり、そして、子どもたちと里でよく手毬遊びに興じた良寛さん(1758～1831)の「戒語」を、恥ずかしげもなく引用させてい

たできます。——恥ずかしげもなく、と申しましたのは、そのほとんどが自分に当てはまり、まことに耳が痛いことと、意味の分からない条文もあるからです。

この「戒語」は、良寛さんの言葉の使い方についての戒めをまとめたものです。九十ヶ条に及ぶ条文は、晩年の良寛さんを支えた弟子、貞心尼(1798～1872)によって折々に書き止められ、良寛さんが逝去された後、貞心尼の歌集「蓮の露」に収録されました。

条文の一つ一つに、今でも、「さん」付けで呼ばれ、多くの人から敬愛されている良寛さんが、いかに言葉を大切にしていたかがうかがえます。

言葉(古語や旧仮名づかい)や生活、文化、風習などの違いがあり、そのすべてとは申し上げられませんが、この「戒語」は、200年の時を超えた今日の情報化社会においても、大いに学ぶべき「言葉の知恵」かと存じます。

- |   |                              |    |    |
|---|------------------------------|----|----|
| 1 | ことばのおほき                      | 戒語 | 良寛 |
| 2 | 物いひのきはどき(下品さとすれすれで、はらはらすること) |    |    |
| 3 | くちのはやき                       |    |    |
| 4 | はなしのながき                      |    |    |
| 5 | とはすがたり(尋ねてもいないのに、自分から語り出すこと) |    |    |